

令和 8 年度第 1 回大田区認知症専門部会の実施内容について

- ・ 令和 8 年度第 1 回大田区認知症専門部会の次第及び前回からの変更点
- ・ 議事（1）令和 7 年度第 2 回大田区認知症専門部会の実施内容及び大田区高齢者祉計画・介護保険事業計画推進会議委員からのご意見について
- ・ 議事（2）令和 7 年度の認知症施策に係る取組等の報告について
- ・ 議事（3）大田区認知症施策推進計画の各施策について

令和8年度第1回大田区認知症専門部会の次第及び前回からの変更点

令和8年度第1回大田区認知症専門部会 次第

【日 時】 令和8年5月14日（木）13時30分から15時まで 【会 場】 蒲田地域庁舎 5階 小会議室 1

< 次 第 >

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 議 事

- (1) 令和7年度第2回大田区認知症専門部会の実施内容及び大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議委員からの
ご意見について
- (2) 令和7年度の認知症施策に係る取組等の報告について
- (3) 大田区認知症施策推進計画の各施策について

【参考】前回からの変更点について

(1) 新たに元気高齢者担当課長が区側出席者として出席

→ これまで区側出席者としては、高齢福祉課長、介護サービス推進担当課長及びその他事業担当者が出席していましたが、認知症に関する予防や社会参加の観点から、介護予防・フレイル予防や社会参加活動を所管している元気高齢者担当課長も今年度から新たに区側出席者として出席することとしました。

議事（１）の実施内容

- 令和７年度第２回大田区認知症専門部会の実施内容を振り返るとともに、推進会議でいただいた意見を共有。（下段資料）
- 推進会議委員からは、認知症専門部会の成果を評価する声や、『認知症症状のある人からの声』に対する反応など、多岐に渡る意見があったことを部会委員へ報告。

大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議での共有及びご意見

推進会議でいただいたご意見（一部抜粋）

※その他にも、実際にあった事例を交えて委員同士が意見交換する場面がございましたが、今回は認知症専門部会に関する内容のみを抜粋して記載しております。

- 認知症症状のある人がご参加いただき、声を共有する取り組みは進んでいますが、今回、具体的に「認知症症状のある人」という表現を使うべきだという方向性が出た点は、一つの目に見える成果として進んだのではないかと感じます。今後、色々な議論が出てくる中で、どこまで解決や共有が進むのか、あるいは、引き続き検討することもあるかと思いますが、本当に大事な一歩が踏み出されたのではないかと思います。
- ９ページから１０ページの『認知症症状のある人からの声』に心を打たれました。認知症症状のある人の声をどう皆さんに伝えていったらよいのかを、深く考えさせられました。
- 色々私も拝見させていただいて、やはり認知症症状のある人の視点が、一般的なイメージと異なると感じました。今、福祉学習を実施しておりますが、学校の先生方などにもこういった部分をもう少し含めて実施していこうと感じました。
- 元気高齢者と一口に言っても、様々な方がいます。就労している方の中にも、日常的な支援がないと一人では難しい場面がある方もいらっしゃるため、こうした認知症の課題について、法人としても何かできることがあるのではないかと、今後も探していきたいと思っております。
- 大変有意義なご意見やご質問をいただき、私も大いに参考になり、話を伺いながら感心しておりました。認知症のある人への支援については、早期発見・早期対応が医療連携を含めて重要であることは言うまでもありませんが、やはり大事なことは、認知症というものがどういうものかをできる限り多くの区民が知っていくことです。認知症がどういうものかを抽象的に出したとしても、なかなかヒットせず、他人事として受け止められてしまうと考えております。ご自身の中に家族も含めて、課題が明確化されない限り、認知症に対する理解が進んでいかないと思います。そこで、地域包括支援センター以外の居宅介護支援事業所や主任介護支援専門員、また、障害分野の事業所や子ども関連の相談窓口など、属性や世代を問わず、幅広い事業者がワンストップで受け止める体制を整えることが必要ですが、アウトリーチで実施していくのは難しさがあるため、まずは、地域包括支援センターに限らず、様々な相談機関があることを区民へ周知していく必要があります。高齢者施策の推進と同時に、窓口の相談機能の充実を図っているということをぜひお伝えいただけると良いのではないかと思います。

※令和７年度第２回大田区認知症専門部会の実施内容に関する説明は、[令和７年度第３回大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議の議事（３）「大田区認知症専門部会の実施報告について」](#)で説明した内容と同様。

認知症専門部会資料 資料番号１：
令和７年度第２回大田区認知症専門部会の実施内容等について（P14）

議事（２）の実施内容①

- ## 認知症カフェの訪問にあたって

認知症カフェ訪問の経緯・今後の予定

- 令和8年度の大田区認知症施策推進計画策定に向けて、高齢福祉課計画担当は、**令和7年5月から8にかけて区内26か所で開催されている認知症カフェを訪問**し、事業に参加している認知症患者のある人や、自身の介護予防のために参加されている方、また、主催者であり支援者でもある包括職員等から広く話を伺った。
- 2回目の訪問は、**令和7年10月から令和8年2月にかけて実施**した。引き続き参加者との対話を通じて広く声を聴取することに加え、参加者に対してA4両面のアンケートを実施した。**アンケートについては、集計結果をグラフ化し、認知症カフェの参加者の傾向を把握することや、各包括へアンケートの分析結果を共有し、今後の事業展開に活用できるように取り組んだ。**

※11月頃に包括入新井で新たに認知症カフェが立ち上がったため、**現在区内の認知症カフェは27か所**です。



1

認知症専門部会資料 資料番号2：
認知症カフェのアンケート結果について（P1）

令和7年度大田区高齢者等実態調査報告書 概要版 (P12,13)

(3) 認知症施策推進に関する課題

認知症施策の推進においては、早期発見や医療的対応のみならず、本人の生きがいや役割を尊重しながら、地域で安心して暮らされ続ける環境づくりが重要である。本調査では、認知症になった人のイメージや「認知症の人」とにも生きる、優しい地域づくりの実現度評価が可視化されたことと、認知症に関する相談窓口、認知機能検査の認知度が低いことが確認された。区民一人ひとりが認知症について深く理解することに加え、各施設や企業と連携していこうと考える。

【調查結果】

- 1-3-1 認知症になった人について感じるイメージ
- ・「認知症になっても、ほぼ従来通りの自立した生活ができてい」るが1割未満、「住み慣れた地域で生活を続けられる」が2割程度となった一方、「住み慣れた地域での生活継続が困難になる」が1〜2割程度、「全く自立した生活が困難になる」が3〜5割程度となった。

- 1-3-2 「認知症の人とともに生きる、優しい地域づくり」の実現度

・「認知症の人とともに生きる、優しい地域づくり」として実現できていることについて「認知症の人が地域や社会で人と関わっていること」が1割程度、「認知症の人が地域で役割を果たしていること」が1割未満となった。

- ### 1-3-3 認知症に関する相談窓口の認知度

・認知症に関する相談窓口について、「知らない」が66.2%と、認知症に関する相談窓口を知らない人の割合が6割半ばとなった。

- #### 1-3-4 認知症施策の認知度

・高齢者一般調査、要介護認定者調査、第2号被保険者調査において、「認知機能検診」を知っていると回答した割合は1割程度となった。

【地址或郵政信箱】

- 課題1：認知症とともに希望を持って生きるという「新しい認知症観」の理解**
・認知症になると従来の生活が困難になるというイメージを持つ人が4～7割程度おり、区民の認知症に対する理解を深めたい必要がある。
- 課題2：認知症症状のある人の社会参加**
・認知症症状のある人の社会参加が実現できると感じている割合は少なく、地域活動への参加や就労など様々な方法により、社会参加が果たされる環境の整備に努めなければならない。

課題3：認知症に関する相談窓口の認知

・認知症に関する相談窓口を知っている人の割合は28.3%と、令和4年度から3.9ポイント上昇したが、依然として2割後半となった。本人や家族に必要な支援へつなげることができるように相談窓口のさらなる周知啓発が必要である。

- 課題4：認知機能検診の認知度不足

・認知機能検診の認知度が1割程度となっている。早期に医療につながるために早期受診が重要であることから、さらなる周知、受診勧奨が必要である。

資料番号 3

単位

1-3-1 認知症になった人について感じるイメージ(4年14月、質問2、2問30)

人数	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ
		認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ	認知症になった人、認知症を患った人について感じるイメージ</

- 1-3-2「認知症の人とともに生きる、優しい地域づくり」の実現度（1問25、2問31）単位：%

人種	性別	年齢	日常生活		娯楽活動		人間関係		無回答
			意見が 異なる 場合 は、意見 を主張 し、他人 が賛成 するまで 諦めず にやり 続ける	娯楽活動 の場 合は、自 己の意 見を 主張 する こと は、大 体、人 々の 賛成 を得 る	娯楽活動 の場 合は、自 己の意 見を 主張 する こと は、大 体、人 々の 賛成 を得 る	娯楽活動 の場 合は、自 己の意 見を 主張 する こと は、大 体、人 々の 賛成 を得 る			
朝鮮系一般	1,860	13.5	25.9	28.3	12.0	5.3	29.3	46.6	7.1
朝鮮系知識者	1,408	8.8	27.7	25.8	4.8	3.9	25.8	48.2	9.1
韓字局事務職員	763	11.9	19.5	21.3	12.4	6.0	22.3	58.3	7.1
自立1人	580	7.1	21.4	20.9	6.4	3.9	23.3	48.3	8.0
結婚済目	866	10.5	21.0	26.3	6.8	4.7	26.7	47.9	8.3

- 1-3-3 認知症に関する相談窓口の認知度（一問22）

■ 知っている □ 知らない □ 無回答

学年	知っている (%)	知らない (%)	無回答 (%)
令和7年度 (n=3,866)	28.3	66.2	5.5
令和4年度 (n=4,027)	24.4	69.5	6.1

- 1-3-4 認知症施策の認知度（1問27、選択27、2問33）

[illegible]

3

議事（2）令和7年度の認知症施策に係る取組等の報告について

議事（2）の実施内容②

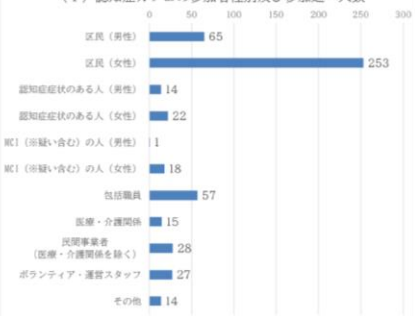
- 認知症カフェのアンケートでは、『①参加者の属性』として性別や年代、『②参加状況及び効果』として参加年数や参加した効果、『③認知症に対するイメージ』として最も近いと感じるものなどを参加者へ質問。
- 事務局からは、認知症カフェの参加者種別や区民の参加者の内訳など（下段左）と、認知症に対するイメージの回答結果（下段右）を報告。特に、認知症に対するイメージの回答結果において、『認知症になった人について、あなたが最も近いと感じるイメージをご回答ください。』という質問に対しては、「1 認知症になっても、ほぼ従来通りの自立した生活ができています」、「2 認知症になっても、地域のサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活を続けられる」と回答した割合が、全体で48.6%であり、この結果は男女ともに、高齢者等実態調査の高齢者一般調査の結果（27.8%）よりも高い割合となったことを共有。

認知症カフェの参加者及びアンケート結果について

（1）参加者の種別及び参加延べ人数、区民の参加者の内訳

- 認知症カフェの参加者を見ると、区民の方が延べ318人（実人数は303人）参加しており、女性の参加者数が男性に比べて、約4倍多い結果となった。また、同じ包括で認知症カフェを2か所実施していることもあり、どちらにも参加している人が数名見られた。
- 認知症症状のある人及びMCI（※疑い含む）の人を合わせた参加割合は、全体の2割弱であった。
- 女性の参加者に話を伺ったところ、予防や健康づくりのために参加しているという声が、どの会場でも多くあった。

（1）認知症カフェの参加者種別及び参加延べ人数



※その他では、施設入所者の介護者や実習生等を計上しています。
※区民の参加者の実人数は、男性57人、女性246人です。

5

区民の参加者の内訳



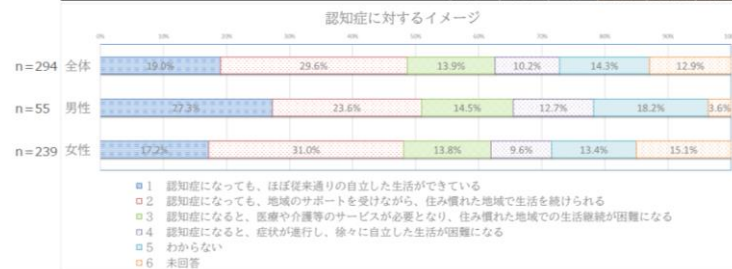
認知症カフェの参加者及びアンケート結果について

（6）認知症に対するイメージ①（実人数のうちアンケート回答者のみ）

- 『認知症になった人について、あなたが最も近いと感じるイメージをご回答ください。』という質問に対しては、「1 認知症になっても、ほぼ従来通りの自立した生活ができています」、「2 認知症になっても、地域のサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活を続けられる」と回答した割合が、全体で48.6%という結果であった。この結果は男女ともに、高齢者等実態調査の結果よりも高い割合となった。※高齢者一般調査では、1の選択肢を回答した方は4.7%、2の選択肢を回答した方は23.1%であった。

選択肢	男性	女性	合計	男性	女性	合計
1 認知症になっても、ほぼ従来通りの自立した生活ができています	15	41	56	27.3%	17.2%	19.0%
2 認知症になっても、地域のサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活を続けられる	13	74	87	23.6%	31.0%	29.6%
3 認知症になると、医療や介護等のサービスが必要となり、住み慣れた地域での生活継続が困難になる	8	33	41	14.5%	13.8%	13.9%
4 認知症になると、症状が進行し、徐々に自立した生活が困難になる	7	23	30	12.7%	9.6%	10.2%
5 わからない	10	32	42	18.2%	13.4%	14.3%
6 未回答	2	36	38	3.6%	15.1%	12.9%

※アンケート未回答者9人を除きます。



10

認知症専門部会資料 資料番号 2【推進会議 参考資料 4】：
認知症カフェのアンケート結果について（P5）

認知症専門部会資料 資料番号 2【推進会議 参考資料 4】：
認知症カフェのアンケート結果について（P10）

議事（２）令和７年度の認知症施策に係る取組等の報告について

議事（２）の実施内容③

- 議事（２）で報告した内容を踏まえ、『（１）大田区の強み・良いと思った取組』、『（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組』について、部会委員からの意見を聴取。

議事（２）の報告を踏まえてお伺いしたい内容

資料番号 4

大田区認知症施策推進計画の策定に向けて、高齢福祉課は令和７年度に、認知症症状のある人やその家族等と対話を重ねて意見聴取ができる『認知症カフェへの訪問』や、区民に対して広く調査し、回答いただくことで区の傾向を捉えることができる『令和７年度大田区高齢者等実態調査』などに取り組んできました。

（１）大田区の強み・良いと思った取組

◎大田区の強みやこれまでに良いと思った（または感じた）取組は、どんなところですか？

- ・大田区では各地域包括支援センターが主体となって、区内27か所で実施する認知症カフェや、認知症サポーター養成講座の実施、若年性認知症支援相談窓口の設置など、各種認知症施策に取り組んでいます。
- ・専門部会委員の皆様も、区の認知症施策に対してご尽力いただいておりますが、その中で区の強みと考えられるものや、これまでに良いと思った（または感じた）取組はありますでしょうか。

（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組

◎大田区の認知症施策において、課題と考えられるものはありますか？

また、その課題を解決するためには、どのような取組が必要だと思いますか？

- ・令和７年度高齢者等実態調査では、地域課題として『①「新しい認知症観」の理解』、『②認知症症状のある人の社会参加』、『③相談窓口の認知度不足』、『④認知機能検診の認知度不足』の４つを挙げています。
- ・これらの課題を解決するためには、どのような取組が必要だと思いますか。また、上記の４つ以外にも課題と思われるものやそれに対して必要な取組があれば、ぜひご意見をお聞かせください！

認知症専門部会資料 資料番号 4：
議事（２）の報告を踏まえてお伺い
したい内容

議事（２）の実施内容④

（１）大田区の強み・良いと思った取組

● 様々な特色を持つ認知症カフェの展開

⇒ 各地域包括支援センターにおいて、それぞれの特色を持った認知症カフェが実施されている。

● 地域での見守り体制の充実

⇒ 高齢者見守りキーホルダーの取組や、民生委員、自治会・町会の方などによって、地域の見守りの目が構築されている。

● 地域と連携・情報共有できる関係

⇒ 区内23か所の地域包括支援センターを中心に、地域の様々な立場の方と日頃から情報共有しており、横のつながりがある。

● 民間事業者との連携

⇒ デニーズやサミットストア、三菱UFJ銀行などの民間事業者が認知症カフェやチームオレンジで活動している。

● エリアごとに異なる地域性

⇒ 羽田空港や多摩川、田園調布のような高級住宅街など、多様な特徴を持ち、エリアごとに全く異なる地域性がある。

（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組

● 認知症施策の認知度向上

⇒ 「認知症に関する相談窓口」の認知度や「認知機能検診」の認知度がまだまだ低い傾向にある。

● 認知症施策の周知・発信方法

⇒ 本当に情報を必要としている方や知ってほしい方にまで情報が伝わるような周知・発信方法を検討する必要がある。

● 認知症症状のある人などが集える場の確保

⇒ 認知症症状のある人などが気軽に立ち寄ったり、同じような状況にある方同士が会って、話ができたりするような場所が求められている。

● 若年層など多世代へのアプローチ

⇒ 今後、新しい認知症観を普及啓発していくにあたって、若年層や現役世代の方々にも、認知症に対して、もう少し関心を持ってもらえるような取組が必要である。

議事（２）の実施内容⑤

（１）大田区の強み・良いと思った取組

【 様々な特色を持つ認知症カフェの展開 】

- 各地域包括支援センターが複数の認知症カフェを実施していますが、それぞれ特色が違うので、ご本人に合う場を選べる場所は、大田区の良さだと思います。
- 認知症カフェについては、大田区では地域包括支援センターを中心に実施しており、それぞれに特色のあるカフェが運営されています。ご本人やご家族が選べるという点は、大田区の良いところの一つではないかと感じました。
- 認知症カフェには、専門職が主体となって運営している印象を持っています。実際にカフェへ行くと、看護師やケアマネジャーなどの専門職と関わるができるため、早期相談につながる環境が整っているのではないかと感じました。さらに、医師が来て話をされる場があるという点も、他地域ではあまり見られない特徴ではないかと思います。
- 認知症カフェのアンケート結果を見ると、予防や孤立防止のための交流の場として活用している方も多いのではないかと感じました。その意味では、認知症カフェは社会参加の場としても有効に機能しているのではないかと思います。
- 認知症症状のある方から、「一人で自宅にいと、どうしても寂しさを感じてしまう。ただ、活動の場に行くことで誰かと交流できる機会があることは、認知症になった立場からすると非常に心強い。」ということをおっしゃっていました。
- これだけ様々な選択肢があるということは非常に良いことだと感じます。例えば、「この地域にはここしかない」という状況になると、選ぶ自由が少なくなってしまうと思います。その点、一つの圏域の中でこれだけ多くの取組や活動の場があるというのは、本当にすごいことだと感じました。

議事（２）の実施内容⑥

（１）大田区の強み・良いと思った取組

【 地域での見守り体制の充実 】

- 大田区には見守りキーホルダーの取組がありますが、これは他区の方から見ても良い取組と評価されることが多いと感じています。それをシールにするなど、様々な形で展開されている点も、大田区の魅力の一つだと思います。
- 大田区には、見守り推進事業者や協力店など、地域の企業や小売店を巻き込んだ大きな見守りの仕組みがあります。その上で見守りキーホルダーの登録もあり、地域包括支援センターの職員としては、このキーホルダーが安否確認など実際の支援場面で非常に役立っていると感じています。見守りキーホルダーを含めた地域の基盤があることは、大田区の大きな強みであると思います。
- 地域で関わっていく中では、民生委員の方や自治会・町会の方など、地域の見守りの目があり、実際に地域の方々から、「生活の中で困っている様子があり心配だ」といった形で地域包括支援センターへご相談をいただき、そこから支援につながるケースがあります。地域で見守る目や体制があるということは、大田区の強みの一つではないかと思います。
- 大田区は、自治会・町会や民生委員の方々など、地域の皆様による見守りの力が比較的強い地域なのではないかと、私自身も地域包括支援センターの立場で、日頃関わる中で感じる場面がありました。

議事（２）の実施内容⑦

（１）大田区の強み・良いと思った取組

【 地域と連携・情報共有できる関係 】

- 大田区は人口規模が非常に大きいため、地域差もあるのではないかと考えていましたが、アンケート結果を拝見する限り、４つの圏域それぞれでバランスよく認知症カフェが展開されており、地域特性に応じた取組ができているように感じました。そして、地域特性が異なる中でも、しっかり連携を取って情報共有できている点は、大田区の強みの一つではないかと思います。
- 区民の方が支援につながった後に、必要に応じて「この方を地域でどのように見守っていくか」を話し合う地域ケア会議を開催することがあります。その際には、民生委員の方だけでなく、地域の商店の方や企業の方などにもお声がけをすると、実際に参加していただける状況があります。地域の様々な立場の方々との連携も少しずつ進んでいると感じていますし、「地域でどのように見守っていくか」を一緒に考えていただける場があることはとても心強いと感じています。
- やはり「連携」という点は、大田区の大きな強みではないかと思います。地域包括支援センターは区内に23か所ありますが、様々な会議を実施していますし、日頃から情報共有も行っています。そうした横のつながりがあることも強みの一つだと感じています。また、見守り推進事業者との関わりもあり、地域での見守りに関する情報が地域包括支援センターへ連絡されることも多く、大変ありがたく感じています。

議事（２）の実施内容⑧

（１）大田区の強み・良いと思った取組

【民間事業者との連携】

- 私は、認知症カフェについて、デニーズのような民間事業者が協力して実施されている点は、とても良い取組だと感じます。また、３月に開催された「チームオレンジの集い」の中で、サミットストアや三菱ＵＦＪ銀行が、チームオレンジとして登録されていることを知りました。ご本人が普段の生活の中で利用するスーパーや銀行といった場所が、チームオレンジとして関わっているということは、本人が安心して日常生活を送ることにつながるため、とても良いことだと感じました。
- チームオレンジの交流会は、非常に良い会だったと感じます。それぞれのチームオレンジの活動内容を共有し合い、「今後また一緒に何かできれば」といった話も出ており、非常に有意義な場になったと思います。また、そうした交流会の機会が設けられていること自体も、とても良い取組ではないかと思います。

【エリアごとに異なる地域性】

- 大田区はやはり広いので、エリアごとに地域性や雰囲気はかなり異なっていて、それぞれの地域で行われている活動にも違いがあるように思っています。その中で、デニーズのように企業が協力してくださり、何かしらの活動を一緒に行っているという点は、とても良いことだと感じています。
- 大田区は非常に地域性に特徴があると感じています。例えば、羽田空港や多摩川、古墳、下町ロケットのモデルとなった工場、さらに、田園調布のような高級住宅街といったように、多様な特徴を持っているため、地域の魅力をＰＲしやすかったです。エリアごとに全く異なる顔を持つ大田区の地域性が、大きな魅力であると実感しています。

議事（２）の実施内容⑨

（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組

【認知症施策の認知度向上】

- 高齢者等実態調査の結果を見て、認知機能検診などの認知度はまだ低いと感じました。認知症について皆さんに「自分ごと」として捉えていただくことや、早い段階から関わっていくことが重要だと思っています。そのためには、MCI（軽度認知障害）を含めた早期診断と、その後の早期支援につながりが持てるような、集いの場のようなものがあると良いのではないかと思っています。認知症カフェもその役割を果たす場の一つではないかと思っています。
- 課題として挙がっていた４項目を見たときに、「相談窓口の認知度不足」と「認知機能検診の認知度不足」がありますが、一番の原因は「新しい認知症観」の理解がまだ十分に広がっていないからなのかなと思います。実際、ケアマネジャーとして関わる中でも、「認知症の検査を受けるのが怖い」「認知症だと分かるのが怖い」とおっしゃる方は少なくありません。その背景には、「認知症になると終わり」というイメージが、まだ根強く残っていることがあるのではないかと思います。そう考えると、まず取り組むべきことは、「新しい認知症観」をどう広めていくかという部分なのではないかと思います。そこが変わらなければ、他の施策もなかなか前に進まないのではないかと思います。

議事（２）の実施内容⑩

（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組

【認知症施策の周知・発信方法①】

- 全体的に認知症に関する認知度は、まだ不足しているのではないかと思います。実際に集まりへ参加される方は、ある程度いつも同じメンバーになっている印象もあり、本当に情報を必要としている方や知ってほしい方にまで十分に情報が届いていないのではないかという気がしています。その場合、「必要な人にどう届けるか」ということが、今後の大きな課題になっていくのではないかと思います。
- 認知症カフェの開催場所について、現在はシニアステーションなど、もともと高齢者福祉に関心のある方が集まりやすい場所が中心になっている印象があります。そうすると、やはり「興味がある人しか来ない場所」での開催になってしまう面もあるのではないかと思います。そのため、区民の方が日常的に利用する場所、つまり生活に密着した場所で実施していくことが重要なのではないかと思います。その意味では、一般企業の力をどう取り入れていくか、生活の中に自然に認知症支援を浸透させていくかということが、今後の大きな課題ではないかと感じました。
- アンケート結果を見ても、認知症に関する取組や情報がまだ十分に知られていない部分があるように思います。その上で、「では、どうやって広めていくのか」と考えたときに、大田区では様々なチラシなどに「はねびょん」が使われていますが、どうしてもそれだけになっている印象があります。そのため、認知症施策での独自のキャラクターを作り、広めていくような取組をぜひやってほしいと思います。例えば、区内の小学生や中学生からキャラクターデザインを公募する形にすると、自分たちが応募する過程で、「認知症とは何だろう」と考えるきっかけにもつながるのではないかと思います。

議事（２）の実施内容⑪

（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組

【認知症施策の周知・発信方法②】

- 先日、図書館とコラボレーションして、認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座、見守り・声かけ訓練を組み合わせ実施しました。すると、図書館を利用している30代、40代の方々が思っていた以上に参加してくださり、少し驚きました。今回は図書館とのコラボレーションでしたが、企業と組んで認知症サポーター養成講座を実施することも、周知啓発を広げていく方法の一つではないかと思います。
- 今回の数字を見て改めて感じたのですが、認知症への理解が進んでいるとはいえまだ十分ではなく、実際には認知症がかなり進行し、ご家族も疲弊し、ご本人も大変な状況になってから相談に来られるケースが今でも多くあります。周知啓発については、本当に幅広く、様々な形で取り組んでいく必要があると思いました。
- 今後、認知症症状のある人が参加しやすい発信方法について考えていく必要があると感じます。支援者が付き添う形が本当に良いのかどうかという点も含め、非常に難しい課題ではありますが、課題を少しずつ整理していくことで、より参加しやすい環境になっていくのではないかと思います。

議事（２）の実施内容⑫

（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組

【認知症症状のある人などが集える場の確保①】

- 認知症と診断された後の時期は、ご本人としてはまだそれほど大きな不自由を感じていない一方で、様々な不安を抱えていることも多く、「誰に何を聞けばよいのか分からない」という状況があるのではないかと思います。そのため、相談窓口の周知はもちろん必要ですが、加えて、気軽に立ち寄って話ができるような場があることも、とても大切なのではないかと感じています。
- 今、自分が抱えている病気や状況について、同じような立場の人と会う機会や話をする場が、あまりないように感じています。同じような状況にある方同士で会って話ができるような場所があると良いのではないかと思います。
- 現在は地域包括支援センターが中心となって認知症カフェを運営している状況だと思いますが、今後は地域住民が自主的にカフェを立ち上げていくような形があってもよいのではないかと思っています。その際、持続可能性という観点も含めて、今後どのように活動を継続していくかということは一つ大きな課題だと感じています。
- チームオレンジで認知症カフェを立ち上げようとする、どうしても65歳以上の方々の参加が中心になります。本来であれば、子育て世代のお母さん、お父さんたちにも、もっと早い段階から認知症について知っていただきたいと思っていますが、なかなかそうした世代がメンバーとして入ってこない現状があります。皆さん「やりたい」という思いは強く持っている一方で、実際にどう進めていけばよいのか、そのノウハウが分からないという点が、今の課題ではないかと思います。また、仮に相談できる場ができたとしても、本当に相談したい方がそこへ来られるのかという課題もあります。実際に別の活動で、「来てほしい」と思う方がいても、「誰がそこまで連れてくるのか」「一人では歩いて来られないのではないかと」といった問題があり、集まり方そのものにも課題があると感じています。

議事（２）の実施内容⑬

（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組

【認知症症状のある人などが集える場の確保②】

- 認知症カフェのアンケート結果を見て、例えば、参加者については女性が圧倒的に多く、数字だけを見ると４倍近く女性が多い状況でした。一方で、参加者全体に占める「認知症症状のある人」の参加割合は、男性が女性より多く、３倍近い状況になっていました。そのことを考えると、認知症のある男性が参加できる場所や、参加しやすい場というものが、実は求められているのではないかと感じました。他に行き場がないからこそ、こうした場に来ているのではないかと、といった見方もできるのではないかと思います。
- 認知症に対するイメージについてのアンケート結果を見ると、男性では３割近くが「認知症になっても、ほぼ従来通りの自立した生活ができています」と回答している一方で、女性では同じく３割程度が「認知症になっても、地域のサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活を続けられる」と回答されています。その違いを見てみると、男性特有の「自分は大丈夫だ」という感覚やプライドのようなものが見え隠れしているように感じ、非常に興味深いと感じました。そして、そのような認識を持っている男性が多いことを前提にした関わり方や取組も必要なのではないかと感じました。
- 最近、世の中の風潮なのか、会場費が値上がりしています。参加費は５００円で、６０代から９０代くらいまでの方々に参加いただいており、毎回２５名程度の方が来られていますが、例えばプール利用料の高齢者割引のように、高齢者が利用する活動に対する何らかの支援があるとよいのではないかと思います。区民の皆様は、フレイル予防への関心が非常に高く、そうした活動を通じて、自然と人が集まり、相談しやすい雰囲気生まれているのではないかと感じているので、高齢者を優遇するような枠を設けることも検討していただければと思います。

議事（２）の実施内容⑭

（２）課題と考えられるもの・必要と考えられる取組

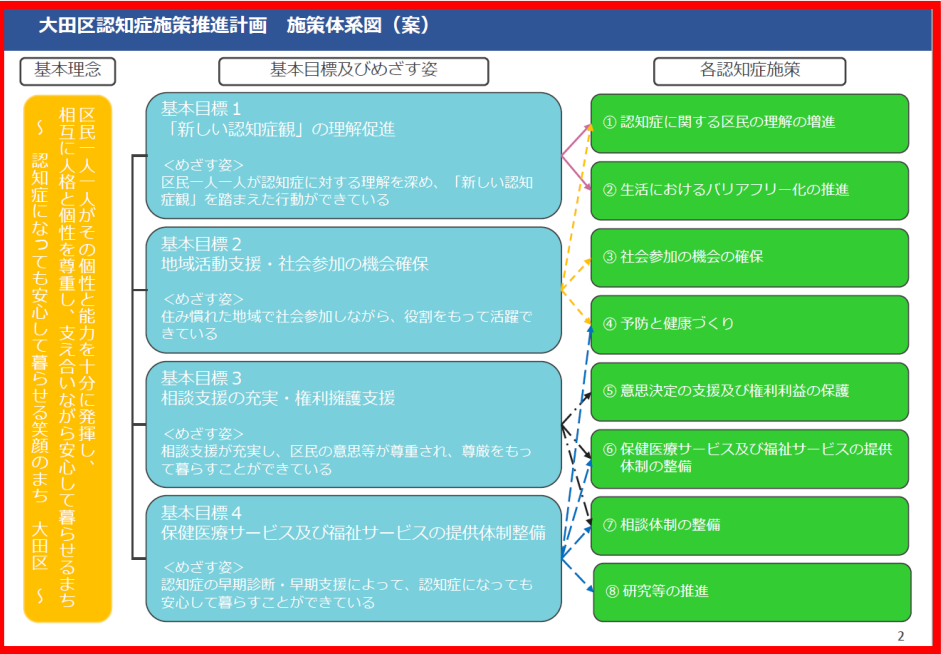
【若年層など多世代へのアプローチ】

- 私たちは若年性認知症の家族会を運営していますが、結構若年層ではない方から、「認知症カフェへ行ってみたが、なかなか入りづらくて、こちらへ参加してもよいですか」とお問い合わせをいただいたこともありました。常連の方々を中心に活動が進んでいる場合には、新しい方が入りやすい雰囲気づくりも必要になってくるのではないかと思います。
- 今後は若年層や現役世代の方々にも、もう少し関心を持ってもらえるような取組が必要ではないかと思っています。現在の施策や活動は、どうしてもある程度、高齢の方が参加しやすい場が中心になっている印象があります。それはもちろん大切なことですが、今後、新しい認知症観を広げていくことを考えると、ターゲット層を意識した発信も必要ではないかと思っています。

議事（3）大田区認知症施策推進計画の各施策について

議事（3）の実施内容①

- これまでに取りまとめた基本理念やめざす姿の振り返りと、各施策に紐づくと考えられる事業・取組について、事務局から説明。
- 各認知症施策に紐づくと考えられる事業については、国の認知症施策推進基本計画や東京都の東京都認知症施策推進計画、また、大田区基本計画・実施計画の内容を踏まえて、事業の洗い出しを行い、施策ごとに提示（下段右）



大田区認知症施策推進計画 各施策と施策を支える事業・取組（案）

施策1 認知症に関する区民の理解の増進

施策の方向性	番号	事業・取組	関係部局
(1) 新しい認知症観の普及啓発	1	認知症サポーター養成講座及びステップアップ講座の推進	高齢福祉課
	2	大田区チームオレンジ推進事業	高齢福祉課
	3	大田区認知症サポートガイドの作成及び配布	高齢福祉課
(2) 学校教育における認知症への理解促進	4	小中学生向けの認知症講座の実施（認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座、イベント等を含む）	高齢福祉課 教育総務課
(3) 本人参画及び本人発信支援	5	ステップアップ講座や各種講座での本人発信	高齢福祉課
	6	大田区認知症施策推進計画専門部会での本人及び家族の参画	高齢福祉課
	7	アルツハイマー月間における各種イベントの実施（若年性認知症当事者のアート展等）	高齢福祉課

3

認知症専門部会資料 資料番号 5 :
大田区認知症施策推進計画の各施策について（P2）

認知症専門部会資料 資料番号 5 :
大田区認知症施策推進計画の各施策について（P3）

議事（３）大田区認知症施策推進計画の各施策について

議事（３）の実施内容②

- 議事（３）について一通り説明後、『（１）追記した方が良いのではないかと考える事業・取組』、『（２）話を聞いて気になった、または、さらに話を聞いてみたい事業・取組』について、部会委員からの意見を聴取。

大田区認知症施策推進計画 各施策と施策を支える事業・取組（案）

施策８ 研究等の推進

施策の方向性	番号	事業・取組	関係部局
(1)認知症に関する研究・取組	1	認知症に関する研究・取組の情報収集及び発信	高齢福祉課

本日の確認事項

施策１～８に紐づく事業・取組（案）の中で、

（１）追記した方が良いのではないかと考える事業・取組はありますか？

・ご提示しました施策を支える事業・取組以外にも考えられるものがあれば、ご意見をお願いいたします。

（２）話を聞いて気になった、または、さらに話を聞いてみたい事業・取組はありますか？

・本日でご紹介しました内容で、気になった事業・取組などがあれば教えてください。本日はいただいたご意見等は、第２回認知症専門部会の議題の参考にします。

（例）＊認知症高齢者グループホームの整備支援について聞いてみたい。

＊「ACPに関する周知・啓発」とあるが、そもそもACPとはなにか。

＊オレンジドクターというのは、どんな事業・取組なのか教えてほしい。 など

認知症専門部会資料 資料番号５：
大田区認知症施策推進計画の各施策
について（P10）

議事（３）の実施内容③

（１）追記した方が良いのではないかと考える事業・取組

- 「多様な介護サービス基盤の整備」の中に、「認知症高齢者グループホームの整備支援」という項目がありますが、認知症に特化した介護保険サービスという点で考えると、グループホームや認知症対応型通所介護などが中心になっているのではないかと思います。グループホームについては整備支援がありますが、認知症対応型通所介護などについては、具体的な施策があまり見えていないようにも感じています。せっかく介護保険サービスとして「認知症対応型」と位置付けられているのであれば、そうしたサービスに対して、もう少し力を入れていくことや、何らかの支援策を検討していてもよいのではないかと感じました。
- 全体としては、本当に幅広く網羅されていると感じています。その上で、今回の議論に当てはまるか分かりませんが、最近特に気になっていることとして、M C I（軽度認知障害）やS C I（主観的認知機能低下）といった、認知症の前段階とも言われる状態があります。「認知症は治らない」というイメージも根強くありますが、M C IやS C Iの段階であれば、まだ改善の余地があると言われています。高齢福祉課では、M C Iに関するリーフレットなどを作成していますが、今後さらに施策の中に位置付けられていくとよいのではないかと思います。現状ではM C Iへの取組はまだ難しい部分も多くありますが、M C Iの方の早期発見プロジェクトのような形で、医療機関と連携しながら取り組んでいます。そうした取組を今後さらに発展させていけると良いかと思います。
- 「認知症に関する区民の理解の増進」において、例えば、認知症サポーター養成講座やステップアップ講座は、推進するだけではなく、その後、認知症カフェや様々な地域活動へつながっていくようなツールや導線づくりが必要なのではないかと思います。そうすることで、地域で新たな団体が立ち上がったり、人材の確保や育成につながったりするような仕組みになればよいのではないかと思います。

議事（３）の実施内容④

（２）話を聞いて気になった、または、さらに話を聞いてみたい事業・取組

- 部会委員からは、「（２）話を聞いて気になった、または、さらに話を聞いてみたい事業・取組」に対するご意見はありませんでしたが、以下のとおり、認知症施策全般に関するご意見を聴取しています。
- 正直なところ、まだよく分からないまま今日ここへ来ているような感覚もありますが、自分自身が今、色々な方に支えていただいている、こうした形で自分たちのために関わってくださっている方がたくさんいるのだと感じました。それだけでも本当にありがたいことだと思いましたし、とても良いことだと思います。また、同じような立場の人たちと会える場所があれば、自分も「実はこうなんですよ」と話ができたり、お互いに気持ちを共有できたりするのではないかと思います。
- 大田区に限った話ではありませんが、公務員の皆さんは異動がありますので、その分、横のつながりを持っているという強みがあると思っています。例えば、高齢福祉課だけではなく、様々な部署を経験されている方も多いと思いますので、そうしたつながりをもっと活かしていけると良いのではないかと思います。例えば教育委員会と連携して、「小学生向けに認知症について学ぶ講座をやりたい」といった提案をしていくこともできるのではないかと思います。ぜひ、そうしたネットワークを活かして、小学生向けの講座なども含め、具体的な取組を提案・展開していただけると良いのではないかと思います。
- これは介護保険課に関わる部分かと思いますが、私は東京都で介護従事者向けの研修を行う機会が多くあります。その中で感じているのは、「新しい認知症観」の普及啓発について、実は介護現場で働いている人たちへの理解浸透がまだ十分ではないということです。むしろ、地域住民の方のほうが、認知症について柔軟に理解してくださっていると感じる場面もあり、少し驚くことがあります。介護を仕事として担っている方々に対しても、「新しい認知症観」を広めていく取組が、今後さらに必要ではないかと日頃感じています。